

2015年1月28日

博士学位論文審査報告書

大学名 早稲田大学
研究科名 人間科学研究科
申請者氏名 山越 英嗣
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目 現代メキシコ社会における先住民アイデンティティのゆくえ
一オアハカ州の ASARO によるストリートアートを用いた「先住民」の再生産
The Future of Indigenous Identity in Mexico
—Recreation of the “Indigenous” through the Street Art by ASARO
論文審査員 主査 早稲田大学教授 蔵持不三也 博士（人間科学）（早稲田大学）（文化人類学）
副査 早稲田大学教授 寒川恒夫 学術博士（筑波大学）（文化人類学）
副査 早稲田大学教授 森本豊富 Ph.D. (UCLA)（移民・移住論）

本論文は先住民が今も数多く住むメキシコ南部の小都市オアハカ（Oaxaca）において、政治的・文化的なメッセージを発信し続ける若い先住民たちのストリート・アーティスト集団アサロ（オアハカ革命芸術家集会、以下 ASARO と記す）の活動をとりあげ、1980年代の一連の反権力闘争を通して、彼らが政治的・社会的・歴史的に築き上げられた「先住民像」といかに向き合い、そこからいかなるアイデンティティを構築してきたかを、数年におよぶ現地調査や文献研究によって考察したものである。

本論文は以下の6章から構成されている。まず、序章ではメキシコ社会における先住民像がいかにしてつくられてきたかを時系列的に紹介する。著者によれば、スペインによる植民地化以降、移民たちとの混血が進んだ結果、「先住民」という概念を明確に定義することがもはや困難となっており、いわば恣意的な意味づけがなされるようになったという。にもかかわらず、1910年代の政府主導による「インディヘニスム」によって、先住民を国民化するという流れが生まれ、17年に制定された革命憲法を経て、20年代には国民の多数派を占める先住民やメソティソ中心の国家運営が唱えられるようになったともいう。そして1980年代からは、多文化主義のなかで、先住民文化の多様性を認めるべきだとするような思潮が広まっていった。しかし、こうした固定化された先住民像を変革しようとする動きが、ほかならぬ先住民アイデンティティを有する人々の間で活発化するようになる。その1例が、1994年のサパティスタ解放軍の蜂起であった。彼らはメキシコ国家の存在を認めつつ、先住民の政治参加を拒む政府の姿勢を批判し、インターネットを通じて世界にそ

の不合理や差別の実態を発信したが、そこで戦略的に自画像として用いたのが、国民の一員としての役割を果たそうとする先住民意識だったという。

「現代メキシコ社会におけるストリート空間の政治学」と題した第 1 章では、ASARO 誕生の経緯が、政治的・社会的状況と関係付けながら説かれている。1980 年代のメキシコの市民生活を苦境に追い込んだ政府の新自由主義政策以降、「制度的革命党」(PRI) の独裁政権への支持率が低下し、2006 年には、この政党に属する州知事への不満が爆発して、同知事の辞任を求めるオアハカ民衆による抗議運動が活発化する。美術学校で日本人画家竹田鎮三郎氏 (東京芸大出身) の指導を受けた先住民学生たちもまた、その反体制的な運動を支持して、メキシコ革命の英雄たちを描いたストリートアートによる抗議の声をあげた。著者によれば、それは Claudio Lomnitz (2001 年) がいうような、反グローバルゼーションとしてのナショナリズムの高揚というより、むしろグローバリゼーションによって彼らが獲得した知識や価値観によるものだという。こうした若者たちの一部が 2006 年に結成したのが、本論文の対象となる ASARO である。彼らは街路や公共建造物の壁に、たとえば当時の権力者たちを「最後の晩餐」の使徒たちに風刺的になぞらえたり、パンク文化とポップアートの手法を取り入れて、革命家サパタの頭をモヒカン風に仕立てたりした、いわゆる抗議の「戯画」を描いた。著者によれば、メキシコでは「公共空間に設置した壁画や彫像がナショナルヒストリーを可視化し、国家の顕在化を顕在化する役割を果たしてきた」という。まさに彼らはその戯画によって、先住民イメージを定式化してきたナショナルヒストリーとは異なる「物語」を訴え、政治への異議申し立てとした。

第 2 章では、著者はそうした ASARO の思想の変化を、彼らの運営システムや作品のテーマなどから追っている。それによれば、この組織の思想的・実践的な核は「プエブロ」にあるという。プエブロとは一般に「村落」や「民衆」を指すが、著者は黒田悦子の定義、すなわちプエブロが「民族的固まりから国にいたる広がりを持ち、個別の独立性を有する」(2013 年) という定義に着目し、ASARO が州政府の政策に対してオアハカ社会のプエブロ自治法「ならわしと慣習」を援用し、アサンプレ (集会) によって組織を運営していることを、参与観察によって明らかにしている。そして、抗議運動の終息後、ASARO の作品テーマがオアハカ州内のみならず、メキシコや世界各地で起きているさまざまな問題をも対象とするようになったとしている。

第 3 章「再象徴化される先住民像」では、メディアを媒介することによって、ASARO の作品が社会の中でどのように象徴化ないし意味づけされていったかを論じている。彼らは自分たちの抗議運動を「輝かしい民衆自治の達成」として神話化し、その一種のユートピア主義の作品が、やがてストリートだけではなく、国内のギャラリーや海外から「草の根民主主義」を実現した先住民アートとして注目されるようになる。こうして市場性を獲得した彼らの作品は、やがて州政府主催の各種イベントに招聘される。そこには先住民たちとの民主的な対話をアピールしようとする州政府の意図があった。筆者はこれを「ストリートアートの資源化」と呼ぶ。しかし、こうした ASARO を取り巻く状況の変化は、

過たず組織内部に微妙な変化をもたらす。メンバーがそれぞれに家庭を持つようになったこともあって、金銭を目的とする作品、著者の言葉によれば、「メディアに流布する言説に目線を合わせ、神話化した抗議運動に加担する作品」を制作するようになったのである。それは生々しい「過去」の記憶を如実に再現するというよりは、定式化した先住民像をなぞる営みでもあるという。

だが、第4章の「グローバル社会に生きる先住民村落の若者たちの価値観」で著者が明らかにしたように、ASAROの質的・組織的な変化の背景には、一向に改善されない貧富の差や汚職の横行といった現実を前に、抗議運動の記憶が次第に風化し、ASAROのモチベーション自体も低下したことがある。この危機的な状況を脱するためにASAROが選んだ道は、若者向けのアート制作のワークショップだという。その目的は、ASAROの思想やオアハカの現実を若者たちに伝えることにある。著者は2013年にそのワークショップも調査しているが、近隣の先住民村落から参加した若者たちに出された制作テーマは、「私のアイデンティティを描く」だった。国内はもとより、外国からの来訪者も増え、最先端の情報や文物が集まり、「村落とオアハカ市と外国」の結節点となっているASAROのアトリエを、先住民の若い世代に自らのアイデンティティと向き合う場にする。おそらく1990年代の伝統復興運動の流れをASARO的に再解釈した結果としてのそれは、負性を担わされてきた先住民像を正性に転位する文化的・社会的仕掛けではないか。筆者はそこに新しいASAROの戦略をみてとる。

そして終章。筆者はこうしたASAROの変容を、「グローバル化」のもとに生じた現象と位置付ける。メキシコの社会運動においては、「革命」という語が運動の正統性を担保し、現実の不正に対する抵抗の論理となる。そこでは、民衆の統合シンボルとして客体化された過去と、語り継がれる自文化の起源神話としての「過去」が、互いに支えあいながら、革命を現代に「生きる」ものとしている。とすれば、ASAROの活動とは、決して大規模なものではないものの、メキシコ革命で想像された「来たるべき未来」がまだまだ到来していない現実社会において、新たな革命の主体としての「先住民」を再生産しているのではないか。著者はこう結論づける。

本論文は、文化人類学の重要なトピックスである先住民の問題を、メキシコにおける先住民アート集団の活動をもとに再検討している。インテンシヴな参与観察から切り出された硬質な論述は、ASAROをめぐる歴史的な展開と著者ならではの斬新な用語法と相まって説得力に富み、たくましくして闊達な先住民論の誕生と告げるものとなっている。望むらくはASARO以外の同様の集団による活動に関する考察も欲しかったが、それでも本論文が斯界に寄与するところまことに大なるものといえるだろう。

なお、本論文（一部を含む）が掲載された主な学術論文は以下の通りである。

1. 山越英嗣「公共空間における〈弱者〉の戦術—メキシコ、オアハカ州の教員ストライキを事例として」、《公共と社会》、学際連携研究、161-176頁、2012年。

2. 山越英嗣「ヒップホップ文化を担う若者たちによる共同体の創造 —地方都市の繁華街で商店を営む若者たちを事例として」、《生活學論叢》、vol. 25、13-22 頁、2014 年。
3. Hidetsugu Yamakoshi & Yasumasa Sekine : *Street art / Graffiti in Tokyo and surrounding districts*. in Jeffrey Ian Ross (Edit.) : Routledge Handbook on Graffiti and Street Art, Routledge, London, 2015 (印刷中) .

以上のことに鑑みて、本審査委員会は、本論文が博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以上